

1. 本園の教育目標

キリスト教精神を情操教育としてとり入れた保育

すべての創造主である神の愛と恵みに感謝し、子ども自身がかけがえのない存在であることを伝え、友達も同じように大切な生命であり、共に育ちあい、分かち合う心を育成する。

学年ごとに話し合って行われる自由保育

この多様化する価値観が存在する社会に将来生きていく園児に、「自分で考え」「自分で積極的に行動出来る」理性の発芽を目的として、自主性・自律性を培う。

「遊び」を通して、心身たくましく成長し、且つ「楽しかったナオミ幼稚園生活」の達成意識の中には、園児が獲得した、協調性・自律性・集中力がバランスよく存在する様、保育や行事が進められている。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

園児の安全を第一に考え、災害・防犯対策を見直し、職員の担当、設備活用を再確認し、マニュアルを改訂。年間の訓練を通し、様々な事態に対し意識強化を高めるため、多様な訓練パターンを実践していく。保護者への通知をし認識を高める。

AED を使った職員の訓練を行う。

日々の保育・行事の見直しや、園児の今の姿を十分把握しながら更なる保育の質を高めていく。

自園の子どもの姿を通し、園の特色や保育内容が伝わるよう HP をリニューアルし、Instagram を新設、園内外に積極的に発信する。

保護者の意見、要望、ニーズを大切にしながら、園の体制を整えていく。

地域社会の中の当園としてその存在を意識し交流を高めていく。

アレルギー対応児には、給食・おやつ等のメニューを事前に配布し事故を防ぐため、個々の書類を作成し、保護者との連携を密にとり、子どもに関わる全ての職員が情報の共有をしておく。

近年の暑さに応じ、夏期プールでは園児負担を考え回数を減らし、テントを新設し安全マニュアルにそって、監視強化、安全意識を高めていく。

連絡アプリを利用し、保護者の方へ迅速で確実な情報提供を行い、またペーパーレス化を進める。

3. 評価項目の達成および取組状況

本園の教育目標と園児の状況

キリスト教保育の大きな愛を持って接し、又日々の礼拝を通して子どもたちは自分も友だちも大切であると感じ、思いやりの心が育まれている。

学年ごとのカリキュラムの成果

子どもに合わせた保育内容になるよう、日々クラスの様子を共有し、子ども理解に努めた。

製作等カリキュラム作成時、実際に体験したことを土台に経験できるよう配慮した。また、子どもたちから発せられる思いやアイデアが活かせるようにした。

年長児が経験する「お泊まり保育」は、保護者から離れて過ごすこの経験を通じ、子どもたちは不安

もありつつ友だちと十分楽しむことができていた。

日々の園生活において担任以外の大人との交わり（園内整備員、バスの運転手、給食・バスの先生等）も社会性の学びに繋がっている。

保護者との交流にて、理解と信頼感を構築している状況について

当園にとって全保護者より成立している保護者会の存在は不可欠。その中より選任された実行委員をはじめ、各行事にはクラスの会員が係を立候補し、園児たちのためにサポートしてくださっている。就労のために預かり保育を利用する保護者も少しずつ増えてきたので、当園での意識調査にご協力いただき、預かり保育の充実を計っている。今後も働きながらも幼稚園に通える園と周知したい。

地域社会との連携交流状況について

中学生（吹田第一中）の職業体験はコロナの影響で交流が中止となっていたが、今年度より再開し、学生と園児が貴重な経験を得る機会となった。

年長児および教職員が花の日礼拝、収穫感謝礼拝終了後、地域の交番やシルバー人材センターを訪問している。

吹田消防署より消防士に来園していただき、防火についての消火活動の教示を受ける。（全園児対象）

吹田警察署より交通安全について教示を受ける。（年長）

ガンバ大阪のコーチ派遣事業としてボール遊び・サッカーについて教示を受ける。（年長）

職員の中から地域との交流を増やしていきたいという意見が出ているので、その可能性を探していきたい。

その他特に特色のある取組について

朝の自由活動(遊び)の時間は、子どもたちが好きな遊具を選び、じっくり友だちとも関われるよう工夫している。

園全体で活発な意見交換の場を設けている。キャリアアップ研修にも積極的に参加し、自己の保育を振り返り自分に必要な学びを深め各リーダーが研修発表した。日常から情報交換を重要視し、日々の保育の質向上のために努めている。

園内の畑で育てるさつまいもや豆、玉ねぎなど、種や苗から植物が育つ過程を観察し、収穫後は給食で調理したものを全園児で食べ、食育にもつなげている。

広い園庭内にある様々な樹木、木の実、野の草を身近に遊びに取り入れ、様々な生き物の観察を楽しめる様にしている。

「ナオミ文庫」として毎年予算を組んで絵本を購入し子ども達に絵本に親しむ機会を増やしている。担任やフリー職員と子どもの日々の様子や変化を共有し、一緒に考え、充実したクラス運営を行なっている。（年少組は二人担任）

働きながらも通える幼稚園を目指し、預かり保育の充実を計っている。満3歳児入園の受け入れを始めて2年目に入るので、2歳児からの移行がより円滑に進行するように連携している。預かり保育も実施している。

スマイルルームの活用

集団での行動が苦手、大きな声や音が苦手、自分のスペースが保てないと落ち着かないといった子どもたちのための部屋としてスマイルルームを開設した。スマイルルームは支援学級ではなく、基本

各クラスに在籍してクラスの一員として過ごす。発達支援士を配置し、定期的に専門医が来園しカウンセリングなども行う。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

2025年度1学期終了後、実施した全職員によるアンケートに基づいて、自己評価を行いました。

(1)本園の教育目標であるキリスト教精神を情操教育としてとり入れた保育について

◇主な評価◇

人生の基盤となる基本的な人との関わり方をキリスト教保育の大きな愛を持ってありのまま受け入れ、自分も友だちも大切な存在であると感じ成長している。子どもたちが愛されていることを感じてもらえるように丁寧に関わり信頼関係を築いていく。その中で思いやりの心を育み、子どもたちがいきいきと過ごせる環境作りを大切にしている。動植物に触れ、命の大切さを感じることができた。

すべての職員が肯定的にとらえ、子ども達の心の成長につながっている と、評価しました。

(2)子どもの姿に添って考えられた保育カリキュラムの成果について

◇主な評価◇

自由保育の中での自由活動（自ら選択し、関わりを深め、発見を楽しむ）と、設定保育（体操・お作法・英語・おえかき）をよりよくバランスを保ち一人ひとりの成長にしっかり寄り添う姿勢で保育できている。特に自由活動では、子どもたちの興味や創造性を育みながら遊びが広げられる環境を整えた。職員間での密な情報共有を重視し、園児に必要な援助、カリキュラムを検討し実践することができた。行事や保育を工夫したことで主体性を育む機会が増えた。

日々の保育の見直しを行い、子どもたちの意見を尊重し活動を進めた。園全体での話し合いの場を設け全職員が園児の成長や悩みを見つめ、共に考える姿勢でいる。運動会・生活発表会・音楽会等は個々の力と友だちとの関わりを重視し多くの力が養われ、楽しい思い出となっている。

キャリアアップ研修を受けたリーダーにより、園内研修の機会を増やした。

社会のなかで生きていくための自律性、自主性、協調性、集中力 などが、主体的な保育によって培われていると思われます。

(3)保護者とのコミュニケーションについて・・・保育者と保護者の相互理解

◇主な評価◇

全保護者より成立している保護者会とその中から選出された実行委員さんは、園児のためにサポートしていただくことで、保育者と保護者の理解と信頼を深めていると思う。

保護者会運営委員との会議においても情報交換・共有をし、学校関係者評価として保育に役立てている。

クラス懇談、個人懇談の実施は、園児の個性を理解し、保護者とのコミュニケーションを円滑にするなど、相互理解に役立っている。

日常の保護者との情報共有を大切にし、全職員がクラスの垣根を越えて日々の園児の様子や成長を共有している。

保護者と寄り添いながら、考えや悩みを共有し、家庭との連携を大切にしている。

保護者との交流にて、理解と信頼感を構築しています。

(4)連携・交流状況について

◇主な評価◇

コロナの状況が改善したため、地域社会との連携・交流ができるようになり、双方にとって良い経験となっている。

花の日礼拝や収穫感謝礼拝、地域の交番やシルバー人材センターを訪問している事は地域との交流につながり、園児たちの社会勉強としても効果があると思う。

消防署来園による防火についての教示を受けることは、園児たちの防火意識を高めている。

行事などを通じて、地域との交流を深めています。

全職員は子ども一人ひとりの成長過程・家庭環境などの共通理解に努め、みんなで見守り、育ち合えるよう取り組み、日々の保育の振り返りでの対話を重視することができた。

外部講師との園内研修を通し、保育を見直し新たな視点で課題を見出すことができた。

一人ひとりと丁寧に接し、子どもの気持ちを汲み取り、個性を尊重し、信頼関係と自信が培えるよう努めている。

伝染病拡大防止にむけて、掲示板を設け、隔月で「こどものけんこうだより」を配布している。

アレルギーに対する個別対応に力を注ぐ。

今後多様化する社会情勢に柔軟に対応していくと共に、保護者の様々なニーズにも耳を傾けていきたい。

保護者と共に見守っていけるような関係作りを心がけている。

クラス運営において、子どもたちの関心があるものに着目し、子ども主体の保育を心がけた。全職員の共通理解から子どもたちが自分らしく過ごせることに繋がった。

連絡アプリの多様な機能を生かし、保護者のニーズに合わせ情報発信のシステムができ、敏速で多様な情報共有が可能になった。

園庭改造によって新しく様々な植物や昆虫に触れることができる環境が整いつつある。

5. 今後取り組むべき課題

保育内容について

園内、園外での研修を重ね、保育内容、行事の在り方を再確認し子ども主体の保育を目指す。

子どもの育ちを改めて考え、保育内容を柔軟に改善し、のびのびとした遊びの環境や時間を増やせるようにする。

遊びの姿をよく考察し、子ども自ら構成し遊びが発展できるような柔軟な環境作り（保育室・園庭）に力を注ぐ。

多様性が求められる中、一人ひとりが大切にされている事を伝え、それぞれが個性を出し合えるクラス作りをしていく。

満3歳児クラスのカリキュラム・環境を整え、遊びを通してどのような成長へと繋がっていくか、見える所より見えてない子どもの心の動きにも意識していく。

職員間で情報共有し（全職員が各クラスの様子を把握できる共有時間あり）、みんなで見守り保育していく環境作りによって子どもも担任も育ち合える機会を作る。

図書室(ナオミ文庫)は、テーマごとで整理している。保育の中での活用方法を更に改善していく。既存のおいも畑に加え、畑を広げ、野菜等を育て給食に利用するなど成長を見守り育てる事で、食に対する興味や感謝の気持ちを育み、園全体での食育の取り組みをより充実させる。

保護者支援として、日々の様子を見守るなかで必要な場合には関係機関とつなげていく。

十分な管理体制への強化

様々な状況を想定して避難訓練を行う。（園児に告知なし等）警察立ち合いの防犯訓練も実施する。アレルギー対応として職員がエピペン使用の勉強会、講習会等に参加し、理解を深め、不慮の事故を予防する。

不審者に対する表門と裏門でのチェックに加え、保護者許可証のチェック等、安全危機管理について更なる認識を強化。

定期的に園庭遊具や設備の点検を行ない、全園児が安全で楽しく遊べるよう配慮している。

園児を危険から守るあらゆる施設面の充実。

災害避難時の対策として備蓄品等の見直しを行う。（水・食料等）

園から発信する手段や内容の質向上に務める。

低年齢児受け入れに際し、今まで以上に安全面・衛生面を強化していく。

幼児教育・保育の無償化について

令和 6 年より、無償化制度の施設型給付を受ける新制度幼稚園に移行したことについて、引き続き周知する。

その他

パート職員も多数在職しているため、職員間のチームワークを大切にし、子どもの姿を共有し、互いに意見を交わし、高め合えるような関係作りを心がける。園内研修の充実も図りたい。

保護者の負担、関係性を大切に考えていく。

地域の方に対しても職員らが自ら働きかけ、地域の方にも見守っていただけるよう働きに務める。

入園募集

満3歳児クラスからの希望者が増加していることを受けて、入園前の親子クラスの門戸も広げる。地域の親子や孤立しておられるご家庭の助けとなるべく、親子クラスだけではなくマザーズトーク（託児あり、パパの申し込みが可能）の時間や、個別の子育て相談も行う。

6. 学校関係者委員会名簿

評価委員 ご芳名

伊藤早知子 中澤純子 越馬君子 濱田直美 津村幸美 吉岡博子 上村邦夫
(順不同・敬称略)

特に指摘される事項なく、妥当であると認められた。

7. 財務状況

公認会計士、監査により、適正に運営されていると認められている。